

① 表事務所事務作業

動員学校 : 日の本高等女学校  
 入社年月日 : 昭和 19 年 7 月 16 日  
 人数 : 83 人  
 作業職種 : 事務 (給与計算)

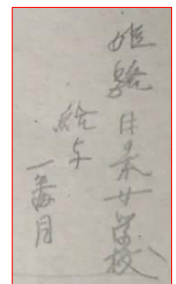
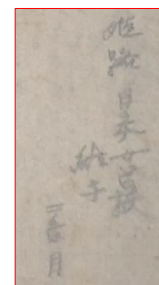


播磨造船所の表事務所で働く女学徒 4 人と後ろで指導する女性が描かれ、窓の外には相生湾の海面と相生の町や山並みが見える。

この絵とほぼ同じ絵が日ノ本学園高等学校に所蔵されている。



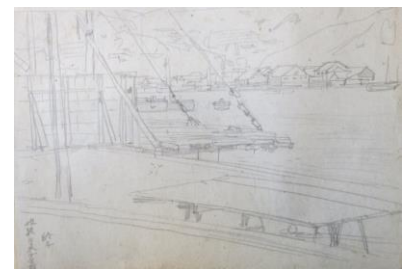
全体の構図



学校名、作業名、構図順番

現存絵画と同じ構図のスケッチが有り、日の本高等女学校（現 日ノ本学園高等学校）の学徒の絵と再確認できた。スケッチの記述より学徒は給与計算をしている作業と判った。

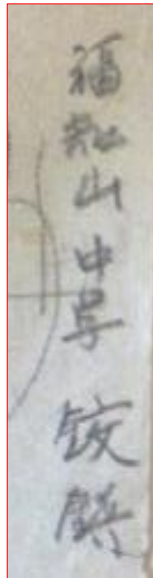
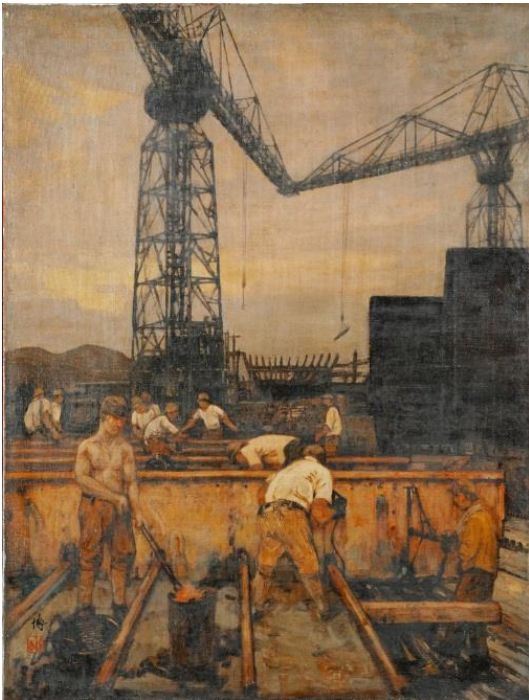
全体の構図、一番目・二番目と記載された学徒の顔、遠景の町並みのスケッチ等が有る。現存の二枚の絵の学徒の顔には違いがあるが、どちらがスケッチの顔と似ているかは判定が難しい。机上を詳しく描いたスケッチは JMU アムテック所蔵絵画に似ている。現場で描いた室内全体や学徒の表情のスケッチをいろいろと組み合わせて、相生の滞在旅館や東京のアトリエに帰って絵画に仕上げた可能性もあると思われる。



岸壁と遠景の家並み

② 炎天下の<sup>こうびょう</sup>鉸 鉸 作業

動員学校 : 福地山中学  
 入社年月日 : 昭和 19 年 7 月 4 日  
 人数 : 216 人  
 作業職種 : 鉸 鉸



学校名、作業職種名



構図の違うスケッチ



<sup>こうびょう</sup> 鉸 鉸 作業（鉸 打ち）は熟練を要する重筋作業で学徒には無理で、作業者は学徒では無いと当初は判断していたが、スケッチの記述より福知山中学（現 京都府立福知山高等学校）の学徒と判明した。

鉸 打ち銃や作業姿勢を詳細にスケッチしており、力を入れて作業をしていたことが想像できる。炎天下で上半身裸であった作業者のスケッチもある。

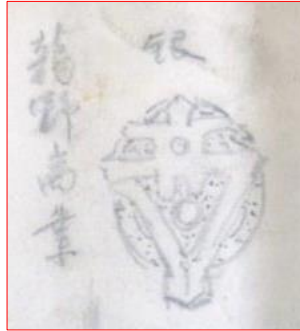
現存絵画とは構図の違うスケッチでは、船台横の屋外ブロック鋼板上で複数の作業者（学徒）が作業をしている姿が詳細に描かれている。



戦後（昭和 24 年）の鉸 鉸 作業写真

### ③ 鉄器工場孔明け作業

動員学校 : 竜野商業  
 入社年月日 : 昭和 19 年 6 月 12 日  
 人数 : 269 人  
 作業職種 : 鋸孔孔明け



学校名、校章

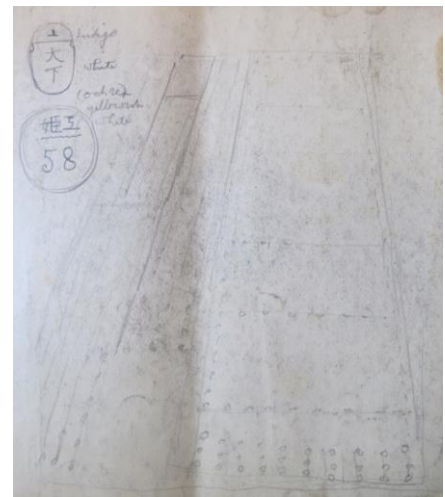


後継校 校章  
(龍野実業高校)



孔明け作業の学徒

龍野商業校章 (別図の旋盤(姫路工業))



(別図の名札(姫路工業))

鋼板

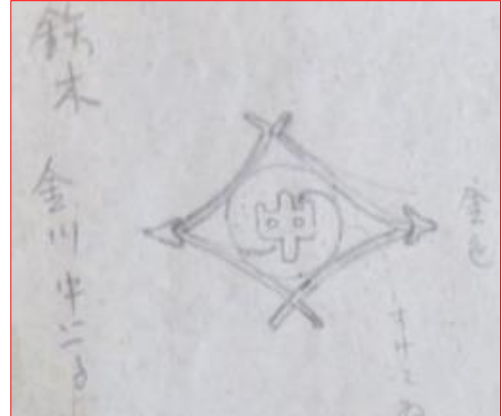
夏の鉄器工場で鋼板に鋸<sup>びょう</sup>を差し込むための鋸孔の孔明け作業(ドリリング)を描いている。絵には校章が描かれていないが、スケッチ帖 No.75 に「龍商・穴明け」と記述が有り、竜野商業(現 兵庫県立龍野北高等学校、前 龍野実業高等学校)の学徒を描いたものと推測していたが、令和 2 年 1 月に見つかったスケッチには学校名・校章の記述が確認できた。学徒は作業の助手と考えていたが、学徒も一人前に作業をしていたと判断できる。

一枚のスケッチには作業する学徒の横に、別図(姫路工業)のスケッチである工作機械(旋盤)の一部も描かれている。裏面には本作業に関わる孔明けされた鋼板と姫路工業の名札が描かれている。

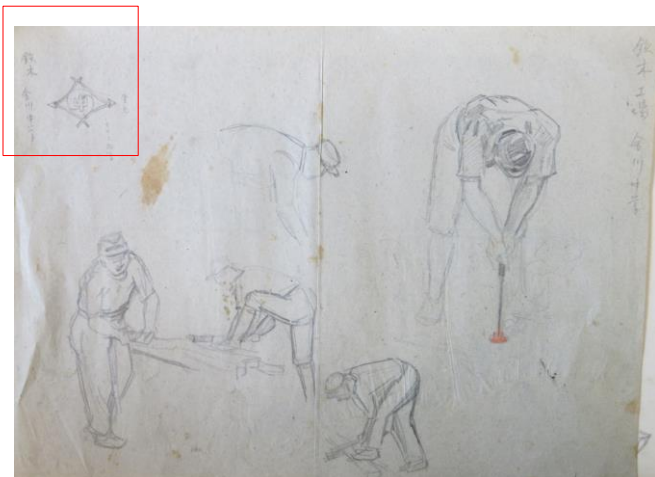
博はスケッチを時には順番にではなく、空いた所を使って描くようである。竜野商業(孔明け作業)と姫路工業(機械工場旋盤作業)を同じ紙にスケッチしていることから、同校の絵は同じ時期(入社月日は同じ 6 月 12 日)に描いていると推測できる。

④ <sup>てつもく</sup>鉄木工場（旧名称 木工場焼印作業）

動員学校 : 金川中学  
 入社年月日 : 昭和 19 年 7 月 18 日  
 人数 : 155 人  
 作業職種 : <sup>てつもく</sup>鉄木



作業職種名、学校名、校章



絵画記載の校章から金川中学（現 岡山県立岡山御津高等学校）と判断していたが、スケッチに校章の色や形の説明もあり再確認できた。また令和 2 年 9 月に御津高等学校にほぼ同一の絵が所蔵されていることがわかった。

作業場は木工場でなく<sup>てつもく</sup>鉄木工場で、職種は鉄木職（進水に関する職種であり 船台で船体を受ける木材を扱う作業等）と判った。

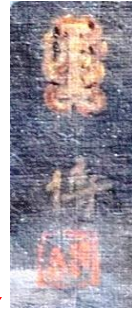
構図は焼き鑊を熱して木材に当てているが、孔を明ける作業なのか焼印を打つ作業なのか不明である。他のスケッチには木材を加工する姿も描かれている。

金川中学との記述横に海南中学の記述を消してあるスケッチがあり理由は判らぬが、記述はスケッチの後に覚えとして書いていて間違いを訂正したのかも知れない。

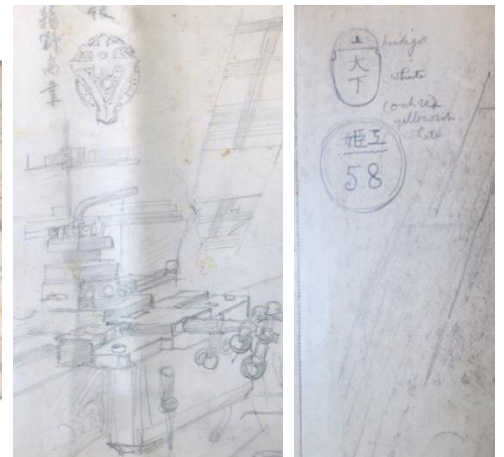


⑤ 機械工場旋盤作業

動員学校 : 姫路工業  
 入社年月日 : 昭和 19 年 6 月 12 日  
 人数 : 86 人  
 作業職種 : 旋盤



帽子、校章、学校名



スケッチ帖 No.147 全体の構図、学徒

(別図の校章(竜野商業))

旋盤

名札

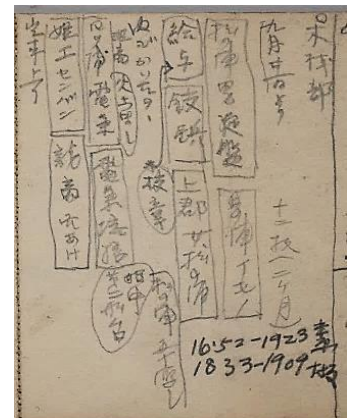
機械工場で旋盤作業をしている学徒を描いている。校章から姫路工業(現 兵庫県立姫路工業高等学校)の学徒であり、旋盤作業は慣れていたと判断できる。スケッチ帖 No.147 に下絵がある。

当時の旋盤等の回転式工作機械は一つのモーターで主軸を駆動し、この主軸からそれぞれにベルト伝達により駆動する方式で、吉田博はこの構造を克明に描いている。なお工作機械が機械それぞれのモーター駆動方式になったのは、昭和35年(1960年)頃であった。

絵画記載の校章やスケッチ帖 No.147 のスケッチから姫路工業(現 兵庫県立姫路工業高等学校)と判明していたが、その後校章と共に帽子や 名札のスケッチが見つかり再確認できた。

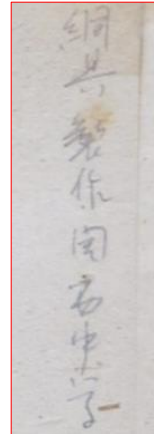
旋盤が描かれている同じ紙には別の絵画(鉄器工場孔明け作業)の学徒である竜野商業の校章や学徒がスケッチされている。姫路工業と竜野商業は学徒動員初期の昭和 19 年 6 月 12 日に同日入社しており、

スケッチ帖 No.75



スケッチ帖 No.75 には「姫工センバン 龍商穴あけ」と並べて記されており、二つの絵は同じ時期、服装から夏に描かれたと推測する。なおこのスケッチ帖には6月に入社した、姫路商業、姫路中学、上郡高女などの学校名と、給与（日の本高女）、鉸鋸（福知山中学）、松の浦旋盤（大谷中学）、日の浦鋳物（立命館第2中学）などの作業職種が記述されており、これらの学徒も同時期に描かれたと推測できる。

## ⑥ ワイヤー先端処理作業



動員学校 : 関西<sup>かんせい</sup>中学  
 入社年月日 : 昭和 19 年 7 月 18 日  
 人数 : 193 人  
 作業職種 : 索具加工

作業職種名、学校名



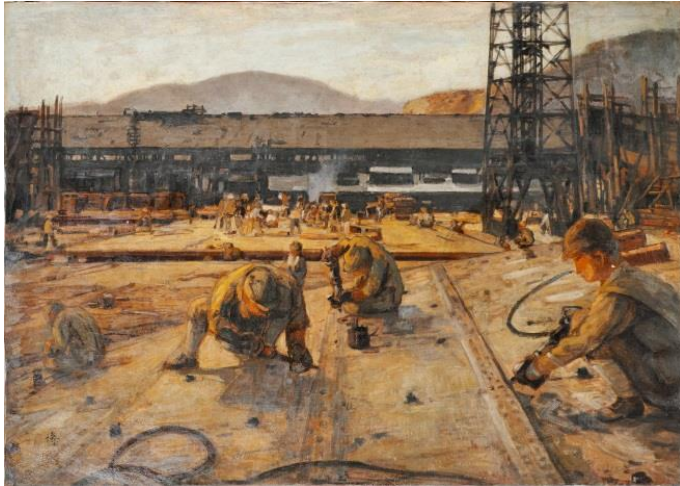
スケッチ帖 No.149



船で使う鋼製のワイヤーの先端を編み込んでいる作業を描いている。スケッチ帖 No.149 に下絵が残っていたが、校章は描かれておらず学徒か不明であった。

その後発見されたスケッチに学校名が描かれており、索具（綱具）工場で<sup>かんせい</sup>関西中学（現 関西高等学校）の学徒が索具を加工していると判明した。造船や船舶に使う鋼製のワイヤーの先端を丸める編み込み作業で、難しく熟練を要するが学徒が行っている。ワイヤーの位置、手先の動き、手先を見詰める眼など作業そのものを詳細にスケッチしている。

⑦ 組立場コーキング作業



背景のある大きな建物は鉄器工場。背後に鷲ノ巣山が見え、第6船台南側屋外での外板（船の外側の鋼板）の填隙作業の様子である。岡山県の金光学園にも同一構図の絵が所蔵されている。

動員学徒がエアホースの先のニューマチックエアハンマーを持ち作業している。服装や遠くに立ち上る煙から昭和 19 年(1944 年) から 20 年にかけての冬の時期と推定できる。この時期戦局も悪化し生産性は良くなかったと想像するが、学徒たちが一所懸命に作業している様子がみえる。

填隙とはコーキングとも言い、<sup>ひょう</sup> 鋸（リベット）で接

合した板の端部をエアハンマーで潰して水密性を保つ重要な作業であり熟練を要する。素人の学徒が填隙したような船は、水がジャジャ漏れであったろうかと想像する

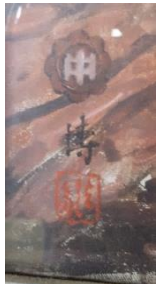
その後金光中学（現 金光学園）に寄贈・掲示されていた絵画を裏付けるスケッチがあり「金光 テンゲキ」との記述がある。

現存の 2 枚の絵の構図は同じだが詳細は違っている。スケッチに描かれている学徒の姿勢やエアホースの描写から判断して金光学園の絵がスケッチに近く、先に制作されたと想定する。

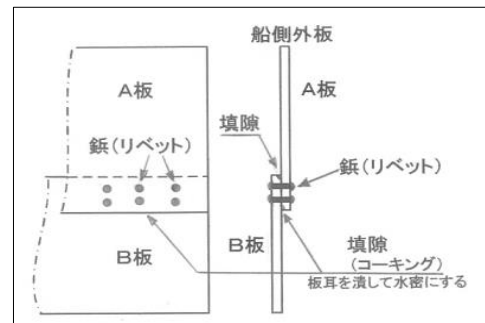
動員学校 : 金光中学  
 入社年月日 : 昭和 19 年 7 月 18 日  
 人数 : 118 人  
 作業職種 : 填隙 (コーキング)



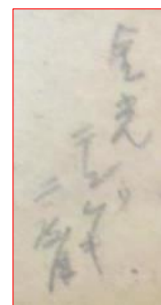
金光学園 記念講堂



校章



填隙の図

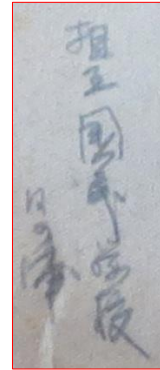


学校名、作業職種名

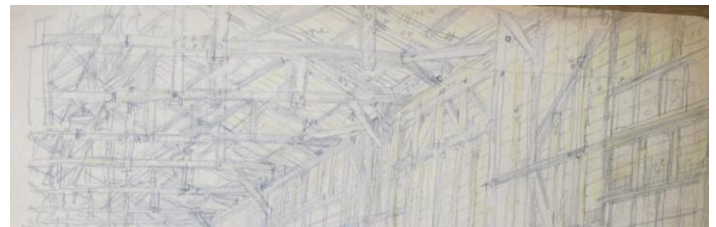
⑧ ハンマー・タガネ作業（旧名称 ハンマー・タガネ基礎訓練）



動員学校：相生国民学校  
 入社年月日：昭和19年3月  
 人数：不明  
 作業職種：未特定（日の浦地区）

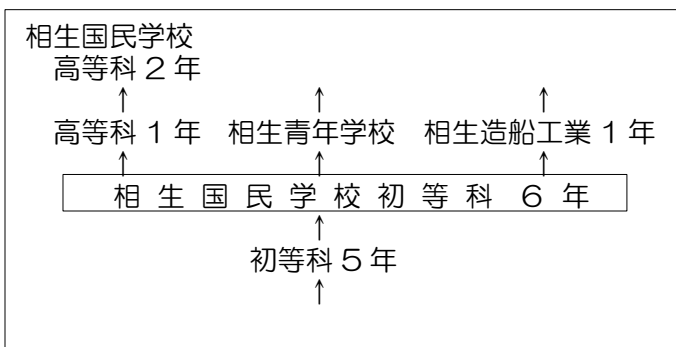


造船所地元の相生市では国民学校高等科生徒（13～15歳）も学徒動員され、記録によれば昭和19年（1944年）11月から高等科1年生が播磨造船所へ動員されている。



2枚重ねたスケッチで全体の構図

戦時中の相生市の学校制度



「相生国民学校 日の浦」と記述のあるスケッチが見つかった。このスケッチは「やすり仕上げの女学生（相生国民学校卒業生）」と裏表をなすスケッチであり、特定していた昭和19年11月の国民学校高等科1年の動員学徒ではなく国民学校卒業生と推定する。播磨造船所50年史には動員学校として相生青年学校の名があり、博は青年学校生を卒業生と認識していたのではないかとと思われる。また作業内容は入社直後のハンマー・タガネの基礎訓練、もしくは女学徒と同じ電気部品の製作ではないかとも推測される。

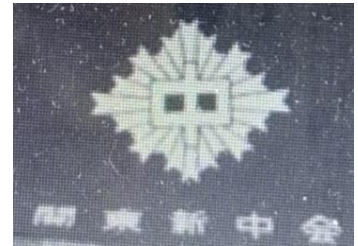
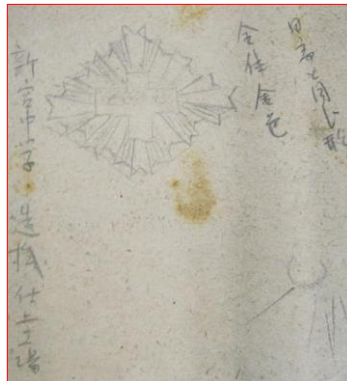
作業する学徒のスケッチとは別に半分に建物の詳細が描かれたスケッチが有り、2枚を重ねると絵画の構図になる。建物は木造構造を詳細に描いており「描写マニア」とも言われる博の一面が伺える。



## ⑨ タービン減速機組立作業

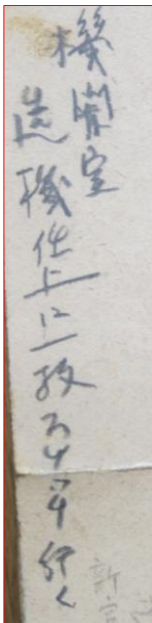
JMU アムテック所蔵絵画

動員学校 : 新宮中学  
 入社年月日 : 昭和 19 年 7 月 25 日  
 人数 : 109 人  
 作業職種 : 機関仕上



現在の同窓会の校章旗

学校名、作業場所名、校章



スケッチ記述 機関室左右、学徒を描いたスケッチ



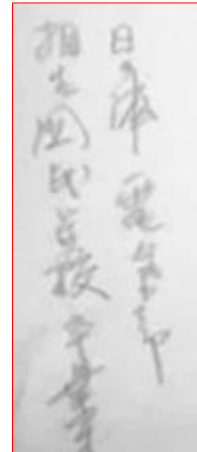
4枚のスケッチを組み合わせた全体の構図

造船現場の船の機関室（船のエンジンが有る場所）は重量物取り扱い、高所作業、特殊技能等であり、絵画は学徒の作業の絵では無いと推測していたが、スケッチには新宮中学（現 和歌山県立新宮高等学校）の校名、校章と作業場所「造機仕上工場」が記述されていた。学徒もこれらの重要な作業に従事していて、大事な戦力であったと思われる。

機関室のいろいろな艀装品（船を構成する物や装置）、学徒の作業姿勢を詳細にスケッチして、複数のスケッチを合わせて全体構図となっている。校章の横には日高中学の校章のことであろうか「日高と同じ形」とも書かれている。また「機関室 造機仕上に一枚スケッチ行く」と書かれたスケッチもあり、工場での作業から連動している機関室での作業を描いた絵と推測する。

⑩ やすり仕上げの女学生

動員学校 : 相生国民学校卒業生  
 入社年月日 : 昭和 19 年 3 月  
 人数 : 不明  
 作業職種 : 電装 (日の浦地区)



学校名、  
作業職種名



名札には「谷口」姓



ミツバツツジと花瓶

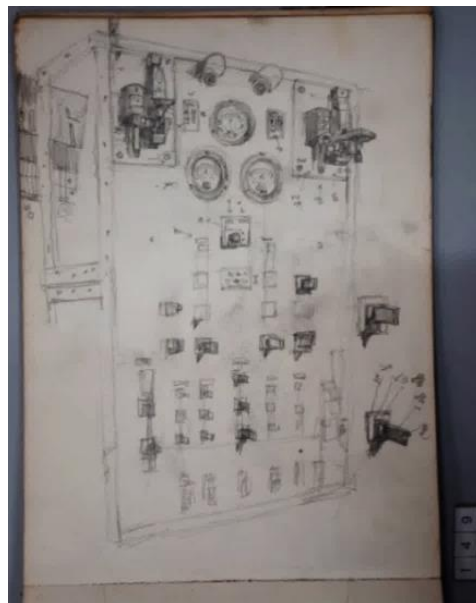
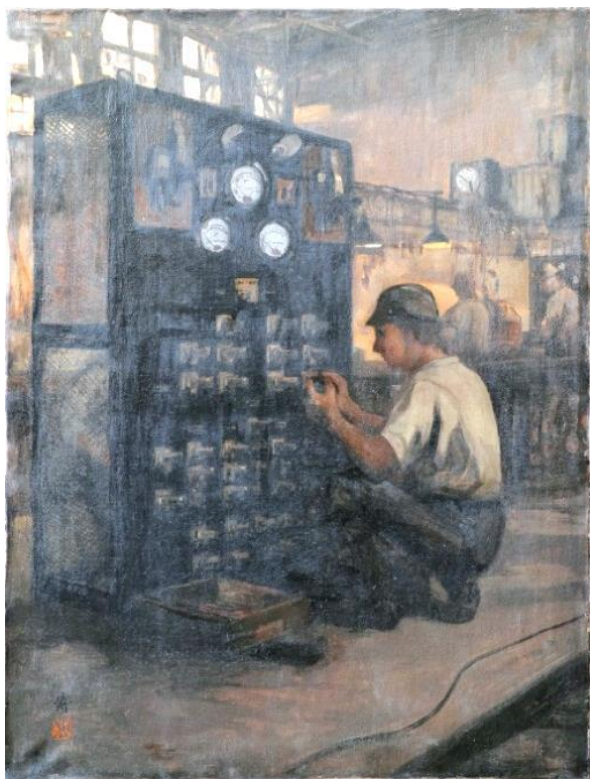


セーラー服より動員学校は上郡高女、作業場所は船台地区の機械工場と特定していたが、スケッチの記述から相生国民学校の卒業生で日の浦の電気工場での電装作業と判明した。「ハンマー・タガネ作業」と同様に、相生青年学校の動員学徒のことと推定する。

作画時期は上郡高女の入社年月（昭和 19 年 7 月）とミツバツツジの開花時期から昭和 20 年 4 月頃と推定していたが、青年学校学徒（国民学校の卒業生）の入社時期（昭和 19 年 3 月）、また太平洋美術学校が被災し、博の自宅も影響を受けた東京大空襲（昭和 20 年 3 月）以降に相生に留まっていたことの可能性の薄さから、昭和 19 年 4 月頃と推定変更した。

やすりを掛ける手の動きや女学徒の髪形を詳細にスケッチしている。机上のミツバツツジの花は、明るく表現する為に意図的に付け加えたのではと想像する。学徒の胸の名札には谷口姓が描かれており、相生国民学校の卒業生名簿を調べたが、谷口姓は存在したが確認は得られなかった。このミツバツツジは今でもアムテックの裏山に自生しており春には私たちの目を楽しませてくれる。

## ⑪ 電気盤組立作業



スケッチ帖 No.149

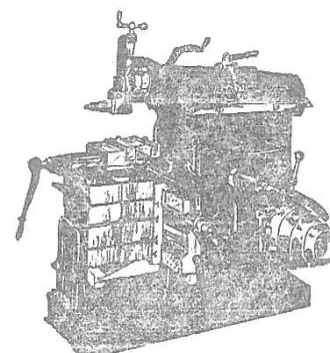
81.0 cm×60.0 cm  
昭和 19 年夏 油彩キャンバス  
JMU アムテック蔵

第1船渠の北側にあった電気工場において動員学徒が電気盤の組み立て作業を行っている。

壁掛け時計の針は6時10分前を指し、窓から斜陽が射し込んでおり夏の風景と想像される。当時の定時退場は4時30分と思われるが、学徒も残業をしていたようだ。この当時、一般従業員の定時退場などは有名無実で深夜残業や徹夜作業が日常であった。

吉田博はこの電気制御盤の克明なスケッチをスケッチ帖 No.149に残している。

## ⑫ シェーパー加工作業



Shaping Machine or Shaper

シェーパー（型削り器）

動員学校 相生国民学校高等科(当時)  
60.0 cm×81.0 cm  
昭和19年春 油彩キャンバス  
JMU アムテック蔵



この絵も校章から相生国民学校高等科の動員学徒が描かれている。シェーパー（切削刃の往復運動により平面を削り出す機械）作業だが熟練を要し、熟練工の作業を後ろから見ているのが学徒と思える。